

2026年

5

7月17日

国見中 だより

文責 校長 陣内美紀

チーム担任制



チーム担任制を始めて3か月が経とうとしています。6月中旬にすべての生徒にアンケートを実施しました。右のグラフがその結果です。肯定的評価が24%、否定的評価が21%、「ふつう」が55%と、8割弱がチーム担任制を受け入れてくれているととらえています。

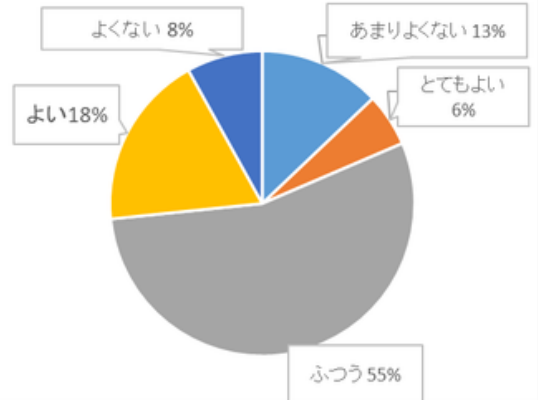
「よい」・「とてもよい」理由

- 1 いろいろな先生と関われる。
- 2 いろいろな先生方の考え方を参考にできる。
- 3 悩んだり困ったりしたときに先生に相談しやすい

「よくない」・「あまりよくない」理由

- 1 先生によって言うことが違う
- 2 ルールがわかりにくい。
- 3 どの先生に相談してよいかわからない

チーム担任制はどうですか？



それぞれの理由はありますが、「よい・とてもよい」の

2「いろいろな先生方の考えを参考にできる」と「よくない・あまりよくない」

の1「先生によって言うことが違う」の根っこは同じことだと思います。価値観や考え方は人によって違います。むしろ違って当たり前なので、担任固定制の、担任一人の見方・考え方に左右されることなく、生徒が教師の違う意見を比較しながら「自分の考え」をもつ機会が増えてきます。学級の問題を捉えるのは生徒たちなので、そのような視点が持てるように学級や学級の子どもたちを支援するのがチーム担任制の機能であると考えています。

チーム担任制Q&A

チーム担任制とは？

学年担当教員が1週間ごとに担任を交代して生徒を支援しています。生徒の主体性を育てること、教師主導ではなく、子ども主体の学級づくりをすることを目的としています。

チーム担任制と子どもの主体性との関係はどのようなもの？学級担任制よりも主体性は伸びるのか？

チーム担任制という各々の指導がオープンになるシステムは学級での囲い込みができなくなるので、子どもを教員の価値観に合わせて指導するということは「目に見えて」なくなります。チーム担任同士で話ができることで「子どもを真ん中」にした授業づくりがすすみ、結果として子どもの主体性が育まれることにつながると思います。

学習規律や細かい指導方法などをどのように決めているか？

学習規律や細かい指導方法は「子ども主体」ととらえる必要があります。「子ども主体」という視点では、学びの主体者である子ども自身が考えることだと思います。細かい指導方法についても生徒にとってどれがよいのかを考えることが「決める」内容であると思います。学校では、生徒自身に考えさせる機会を多く作るようにしています。今後、学校の規則についても生徒と一緒に作っていく予定です。

明日から夏休み

命を大切に

今日の終業式では3つのことを話しました。一つ目は「学校に来てくれてありがとう」ということと、学校に来ることの意義（幸せになるために）。二つ目は「ありがとう」の効果。三つめは「命を大切に」ということです。

昨年度の臨時全校集会で「あなたが何となく生きた今日は、昨日亡くなった誰かがあれほど生きたかった今日」という言葉を紹介しました。国見中学校の生徒、職員である意義のひとつとして「命の大切さ」を実感し、それを受け継いでいくということであると思っています。

親から受け継いできた大切に守られてきたたったひとつしかない命を、自分を、大切にしてほしいと願ってやみませ

保護者面談・三者面談

よろしく願いいたします。

7月22日（火）から、1・2年生は保護者面談、3年生は三者（四者面談）が始まります。ご都合をつけてご参加いただき、ありがとうございます。チーム担任制のため、できるだけたくさんの良いところをお伝えできればと思っています。また、せつかくの機会です。日ごろのご質問・ご意見等遠慮なくお伝えください。

